

No. 1423

いまだ還えらぬ島々

— 北 方 領 土 —

北海道の東に位置する北方の島々。歯舞、色丹、国後、沢捉、これらの島々は我が国固有の領土です。今年で2回目を迎えた「北方領土の日」2月7日、東京、九段会館で「昭和57年北方領土返還要求全国大会」が開かれました。あいさつに立った鈴木総理は「北方領土問題を解決し、日ソ平和条約を締結するという基本方針を堅持し、粘り強く外交交渉を続けていく決意だ」と述べ、北方領土返還の実現に向け一層の努力を傾けていく決意を表明しました。この日会場を訪れていた元貴乃花関が飛び入りであいさつ、返還運動を激励しました。続いて元国後島民で根室市に柱む部川鶴之助さんが返還実現を訴えました。最後に仏所護念会の柏木孝さんが決意表明を読み上げ大会を終りました。

惨！ 相次ぐ大事故

ホテル火災で32人死ぬ

— 東 京・赤 坂 —

2月8日午前3時30分頃、東京赤坂にあるホテル・ニュージャパンの9階客室付近から出火、火は9階から10階に燃え広がりポンプ車、ハンゴ車など110台が消火にあたったが、約4,000平方メートルを焼いて、出火から9時間余りの12時36分ようやく鎮火した。出火当時ホテルには315人が泊っており逃げおくれた宿泊客が煙にまかれたり、窓から飛び降りるなどして、32人が死亡、負傷者28人を出す大惨事となった。原因はふだん火の気のないところから9階938号室の宿泊客である英国人のたばこの不始末か、漏電ではないかと思われている。東京、芝の増上寺に次々に運び込まれてくる遺体。犠牲者のなかには韓国やハワイなどの外国人も多くふくまれていた。都内で起きた火災では戦後最悪のものとなった今回の大惨事、火災無防備状態を放置したホテル側の責任が強く問われる。

日航機 着陸に失敗

— 東 京・羽 田 —

ホテル火災の悪夢もさめぬ2月9日午前、今度は乗客166人を乗せた福岡発羽田行の日本航空350便DC8型機が着陸に失敗、滑走路手前の海に墜落した。この事故で24人が死亡、147人が重軽傷を負った。同機は滑走路手前1.3キロの地点を正常に通過、しかしこの直後急に高度が下がり、着陸進入灯に激突、海に突っ込んだ。事故発生と同時に、海上保安本部、消防庁警視庁などが救出活動を行い、負傷者を次々に助け出した。救助された人々は都内や空港周辺の病院20カ所に収容、また比較的けがの軽い人々は羽田東急ホテルに収容された。急を聞いて、福岡からかけつけた人々、兄や夫の死を知らされて悲しみにくれる家族。助かった人々の話では着陸態勢に入り、まもなく急にエレベーターで下降したような感じがしたとたん鈍い衝撃があった。すごい勢いで海水が入ってきたという。沈痛な表情で会見する高木日航社長。「多数の死傷者を出す事故を起して申し訳ありません。亡くなられた方々のごめい福を心からお祈りします」。24人の遺体は日航ライン整備ビルに収容され、検死のあと家族による身元確認が行われた。この後遺体は空港近くの寺、正蔵院に移され、仮通夜が行われた。突然おそったふたつの惨事、この原因究明が急がれる。